

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_速報版 (使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新虎安田ビル	階数	地上14F地下2F
建設地	東京都港区	構造	SRC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	15,900 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,160 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、集会所、工場、等	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年2月 竣工	評価の実施日	2024年6月15日
敷地面積	2,234 m ²	作成者	松田平田設計
建築面積	1,778 m ²	確認日	2024年7月15日
延床面積	25,845 m ²	確認者	松田平田設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100%
②建築物の取組み 63%
③上記+②以外の 63%
④上記+ 63%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 4.1

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<p>新虎通り沿道は、道路開通後も老朽化した小規模な建物が密集しており、東京の新たなシンボルロードとしてふさわしい賑わいや統一感のある街並みの形成が求められています。本計画では沿道の先進事例として、既存街区や歩行者ネットワークの再編を行うとともに、SDGsへの意識の高まりや、コロナを契機とした社会環境の変化に対応した、今後の超スマート社会に相応しい新たなビルのあり方を示すことを目指しました。</p>		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<p>照明やブラインドの自動制御により、事務室の光・視環境に配慮している。 F★★★★建材を全面的に採用している。</p>	<p>フレキシビリティの高い整形無柱な執務空間の確保、階高や荷重にゆとりを持たせ計画にて建物の対応性に配慮している。</p>	<p>外構の植栽や屋上緑化・壁面緑化の建築緑化を積極的にこない、良好な景観形成や生物環境保全に配慮している。</p>
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>ZEB Readyを達成している建物であり、省エネルギー計画に配慮しました。 BEMSの導入により、主要な用途別にエネルギー消費量を把握・分析可能な計画とし、エネルギーの効率的な運用に配慮している。</p>	<p>節水器具の採用、雨水の再利用により水資源保護に配慮している。</p>	<p>高効率な設備機器を採用により、CO2排出量を低減することで地球温暖化へ配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される